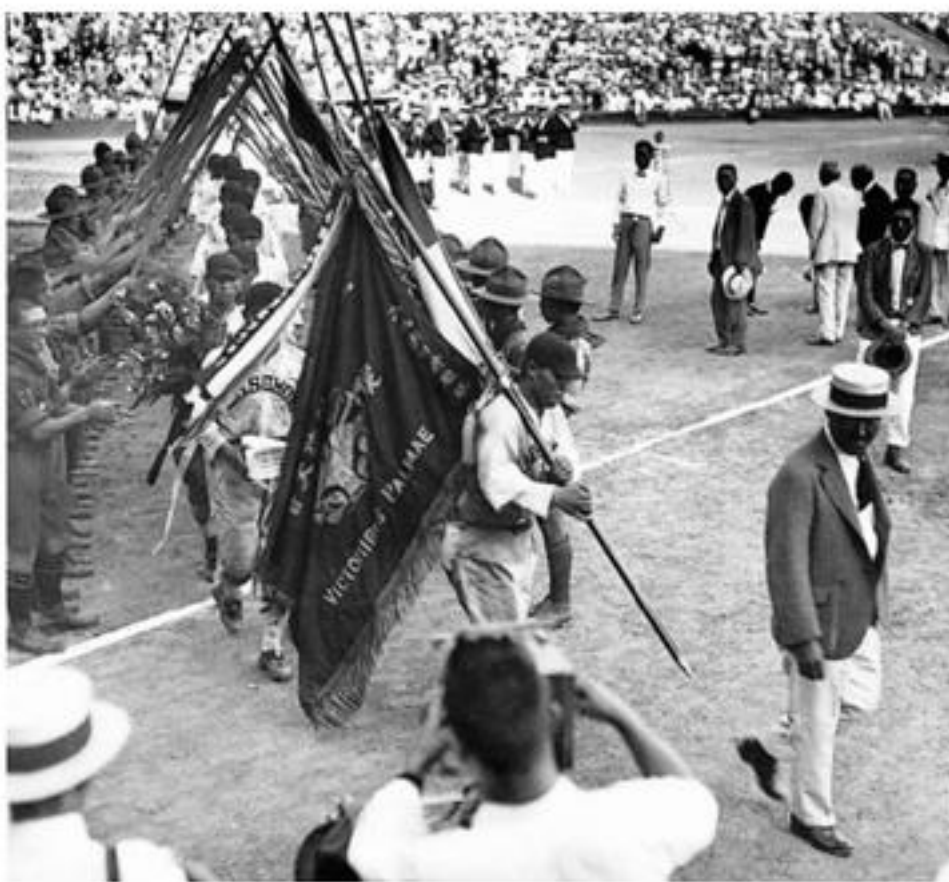


松本商夏の熱戦再び

後身の松商学園VS.龍谷大平安 (平安中)

90年前の決勝校 6月16日対戦



第14回大会で初の全国制覇を遂げ、優勝旗を持つ佐藤茂美主将を先頭に行進する松本商チーム。1928年8月22日、甲子園球場

▽第14回全国中等学校優勝野球大会決勝戦

(1928年8月22日、甲子園球場)

松本商 1020000000

平安中 000000001

- 平安中戦の松本商メンバー
- 二) 中村 貞男
 - 遊) 大月 四郎
 - 捕) 百瀬 和夫
 - 中) 佐藤 茂美
 - 投) 中島 治康
 - 一) 田辺 五平
 - 三) 村田 貞男
 - 左) 高野 百介
 - 右) 中村 恒利

90年前に夏の甲子園の決勝戦でしのぎを削った長野と京都の伝統校が、6月に松本市で再戦する。夏の出場36回の松商学園(当時は松本商)と33回の龍谷大平安(当時は平安中)。全国高校野球選手権長野大会が第100回となる記念の招待試合として、県高校野球連盟が9日の理事会で決定し、発表した。

甲子園でおなじみの古豪同士が、ともに初優勝をかけて臨んだ1928(昭和3)年の第14回大会決勝戦は、松本商が平安中を3-1で下した。

県勢の甲子園制覇は、選抜大会では後に飯田長姫

(現・飯田OIDE長姫)が54年に1度記録したが、夏は唯一だ。松商学園の校舎内にある「歴史栄光室」では、優勝旗のレプリカが大切に保管されている。優勝投手は後にプロ野球

史上初の三冠王に輝く中島治康氏(元巨人、故人)。長男の治彦氏(70)は東京都在住。父は甲子園に発つ前に自宅の裏山で『日本一になるぞ』と叫んだそうです。決勝戦の再現は喜ぶ

とあるので、仏前に報告します」と話す。

夏の甲子園で両校は51年の第33回大会2回戦が次の対戦となり、平安が1-0で雪辱。13年ぶり2度目の優勝につなげた。それぞれが全国制覇した大会で相手を破ったという奇縁がある両校。松商学園の足立修監督(54)と龍谷大平安の原田英彦監督(57)は「100回大会だからこそ実現する対戦。選手は歴史の重みを感じてプレーしてほしい」と口をそろえる。

試合は6月16日に松本市野球場であり、両校が第1試合で対戦、第2試合は過去10年間で県勢として夏の甲子園に最多3回出場の佐久長聖と龍谷大平安のカードとなる。入場無料。主催は県高野連と朝日新聞長野総局。

(山田雄一)



返還した優勝旗に代わり、松本商に贈られたレプリカ。優勝旗よりは小ぶりですが、下段に「第十四回優勝記念」とある。松本市の松商学園歴史栄光室